南湖に放流したホンモロコ標識魚（平成 27 年度放流群）の追跡調査

太田 滋規

１．目　的

本項では「取り戻そう！南湖のホンモロコ復活プロジェクト」で平成 27 年に放流されたホンモロコ標識魚（以下南湖放流魚）の追跡調査について報告する。

２．方　法

①南湖での稚魚分布状況調査：下笠地先で標識放流された 118 万尾のホンモロコ稚魚（平均全長 22mm）の分布を把握するため、6/25 から 7/14 までの毎週、放流場所を中心にビームトロール網による採集調査を行った。また、放流後から 8 月 19 日にかけて南湖のエリによるホンモロコ稚魚漁獲魚の標識調査を行った。

②琵琶湖北湖での標識魚分布調査：北湖における南湖放流魚の分布状況および混獲状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚（刺網、沖曳網）の標識調査を行った。

３．結　果

①南湖での稚魚分布状況調査：ビームトロール網による調査は水草の繁茂が著しく、曳網を正常に行うことが困難であった。この調査でホンモロコの稚魚は採捕できなかった。エリによる調査では 1,641 尾の稚魚が採集された。そのうち 1,024 尾が南湖放流魚で、その多くは放流から 2 週間以内であった（図 1）。一方、無標識魚が 609 尾採集され、それらは明らかに標識魚より大きかった（図２）。また、水田放流標識魚（標識率 30%）は採集されなかったことから、水田放流魚の無標識魚とも考えられず、再生産の可能性が示唆された。これらの耳石の日周輪を簡易に計数し、ふ化日を推定したところ、4/12 から 5/6 と推定された。

②琵琶湖北湖での標識魚分布調査：秋期（10/10～11/5）の刺網漁獲魚を 2,274 尾調査したところ、南湖放流魚が 2 尾再捕された。また、冬期（1/16～2/23）の沖曳網漁獲魚を 5,681 尾調査したところ、南湖放流魚の再捕は 4 尾のみで、昨年より減少した。

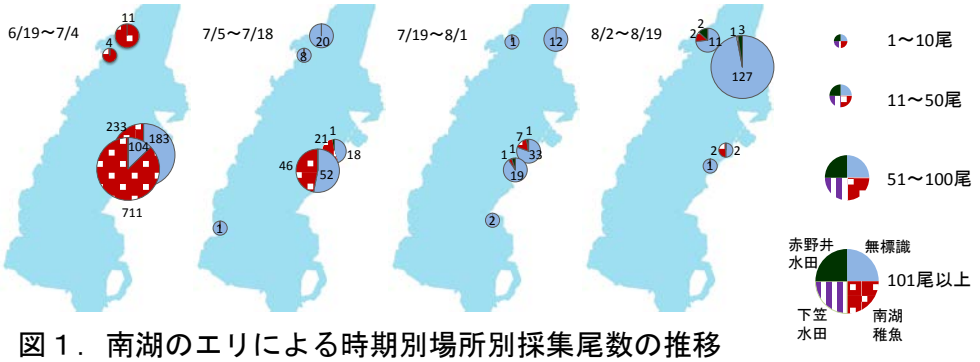

図１．南湖のエリによる時期別場所別採集尾数の推移

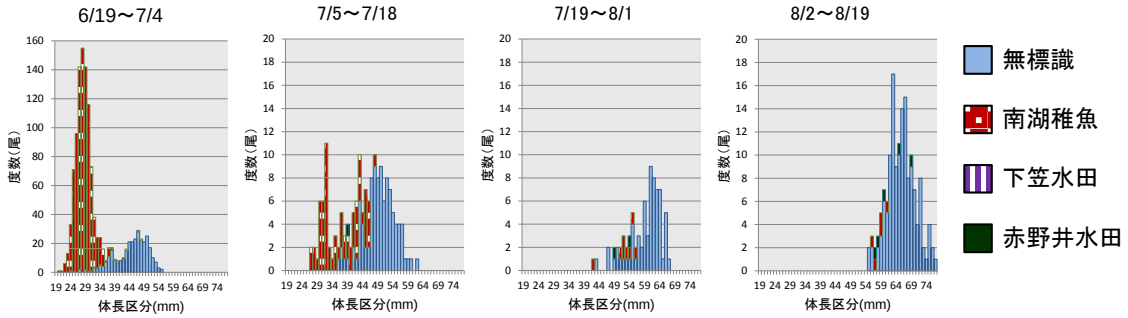

図２．南湖のエリ採集稚魚の時期別体長組成の推移